

# 宮城県感染症発生動向調査情報

平成28年8月25日発行

— 2016.8.15～2016.8.21—第33週—

## 1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾病	保健所							患者数	宮城県(含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第30週	第31週	第32週	第33週
水痘		3 0.30	4 0.80		1 0.33	3 0.60		8 0.30	19 0.32	1,012	○	レ		
流行性耳下腺炎	4 0.80	1 0.10	1 0.20	1 0.50			1 0.20	7 0.26	15 0.25	762	○	レ		
百日咳	1 0.2	1 0.1							2 0.03	17				
感染性胃腸炎	30 6.00	5 0.50	6 1.20	7 3.50	7 2.33	8 1.60		64 2.37	127 2.15	11,424	◎	◎	◎	◎
手足口病	9 1.80	19 1.90	3 0.60	4 2.00	1 0.33	2 0.40	4 2.00	56 2.07	98 1.66	621	◎	◎	◎	◎
伝染性紅斑					1 0.33			3 0.11	4 0.07	294				
突発性発しん	2 0.40	8 0.80	5 1.00		4 1.33	2 0.40	1 0.50	8 0.30	30 0.51	1,063	○	○	○	○
ヘルパンギーナ	37 7.40	24 2.40	16 3.20	21 10.50	16 5.33	13 2.60		83 3.07	210 3.56	1,613	◎	◎	◎	◎
インフルエンザ									0 0.00	28,056				
咽頭結膜熱		1 0.10				3 0.60		4 0.15	8 0.14	646	レ			
流行性角結膜炎		1 0.33							1 0.08	83				
急性出血性結膜炎									0 0.00	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12 2.40	7 0.70	2 0.40		1 0.33	68 13.60		17 0.63	107 1.81	7,127	◎	◎	◎	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)									0 0.00	8				
無菌性髄膜炎									0 0.00	4				
マイコプラズマ肺炎			1 1.00	1 1.00				9 1.80	11 0.92	243				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0 0.00	0				
RSウイルス感染症	4 0.80	1 0.10						4 0.15	9 0.15	341				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									0 0.00	14				
拡張疾病														
マイコプラズマ肺炎(小児科)	8	2	4	2				9						
川崎病								1						
不明発疹症								5						

◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意  
○: 発生または流行について、今後の情報に留意  
レ: 発生が少なくなっている傾向

## 2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核

塩釜管内 男性2名

登米管内 女性1名

石巻管内 女性2名

3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)

仙台管内 女性1名

腸管出血性大腸菌感染症(O26)

気仙沼管内 女性1名(第32週)、男性1名(第32週)

腸管出血性大腸菌感染症(O103)

塩釜管内 女性1名

腸管出血性大腸菌感染症(O不明)

登米管内 男性1名

石巻管内 男性1名

4類感染症: デング熱

仙台管内 女性1名

レジオネラ症

塩釜管内 男性1名

5類感染症: カルバペネム耐性腸内細菌感染症(*E.cloacae*)

仙台管内 男性1名

梅毒

仙台管内 男性1名

## 3. 宮城県感染症対策委員会情報解析部会

【定点把握対象疾患】

【ヘルパンギーナ】

仙南・塩釜・大崎・栗原・登米・仙台管内で警報継続中

【手足口病】

気仙沼管内で警報継続中

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

石巻管内で警報継続中

## 【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

病原体の検出なし

～仙台医療センターウイルスセンター～

	確定	中間報告	
	第30週採取分 (7.25～7.31)	第31週採取分 (8.1～8.7)	第32週採取分 (8.8～8.14)
サイトメガロウイルス	0件	0件	1件
パラインフルエンザウイルス1型	3件	1件	0件
パラインフルエンザウイルス2型	0件	1件	0件

## 4. 今週のコメント

### 【ダニ媒介性脳炎】

ダニ媒介性脳炎は、脳炎ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染する脳炎の総称で、主なものに中央ヨーロッパ型脳炎とロシア春夏脳炎があります。1～2週間の潜伏期間を経て発症し、発熱、筋肉痛、頭痛などに続いて一部の患者では脳炎に進展します。死亡することもあり、回復しても後遺症が残ることが少なくありません。世界では毎年数千人の患者が発生していますが、日本では稀な感染症です。日本国内で感染した事例としては北海道で平成5年と今年7月に各1例が報告されています。ダニ媒介性脳炎の予防は、ウイルスを保有するダニに咬まれないようにすることが最も重要となります。流行地域で野外活動をする際には、ダニに咬まれないよう長袖長ズボンの着用など肌を露出しないようにすること、忌避剤の使用などの対策をしましょう。ダニに咬まれているのを発見した場合は、無理に引き抜くと頭部が残ることがありますので、医療機関で除去してもらいましょう。

<厚生労働省ホームページのダニ媒介脳炎に関するQ&A>

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou18/mite\\_encephalitis.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou18/mite_encephalitis.html)

宮城県保健環境センター(宮城県結核・感染症情報センター)

電話 022-257-7228

FAX 022-256-3362

HPアドレス: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans//kansen-center.html>

宮城県定点週報告対象疾病の推移

